

# 大槌

広報おおつち NO.584  
2014年6月5日

## 目次

3	トンネル事業化でまちづくりに弾み	17	大槌町地域包括支援センターのページ 楽笑高齢者になろう ほか
4-11	復興通信 私たちがつくる私たちの新しいまち ～③浪板地区 復興を支える人支える団体 未来へ引き継ぐ大槌の心意気 ～復興基本計画（改定版）概要	18-19	ひょうたん島日記
12-13	大槌町津波避難マップ	20-21	教育委員会だより 城山の風 第76号
14-15	保健福祉課からのお知らせ ほか	22-23	まちのお知らせ 大槌町カレンダー
16	すくすく赤ちゃん PHOTO まちかど 町長随想	24	大槌学のすゝめ 編集後記

表紙の写真: ドロノキ植樹祭= 4月27日、新山高原 (19ページ参照)

定点観測 (2014年5月20日、城山から)

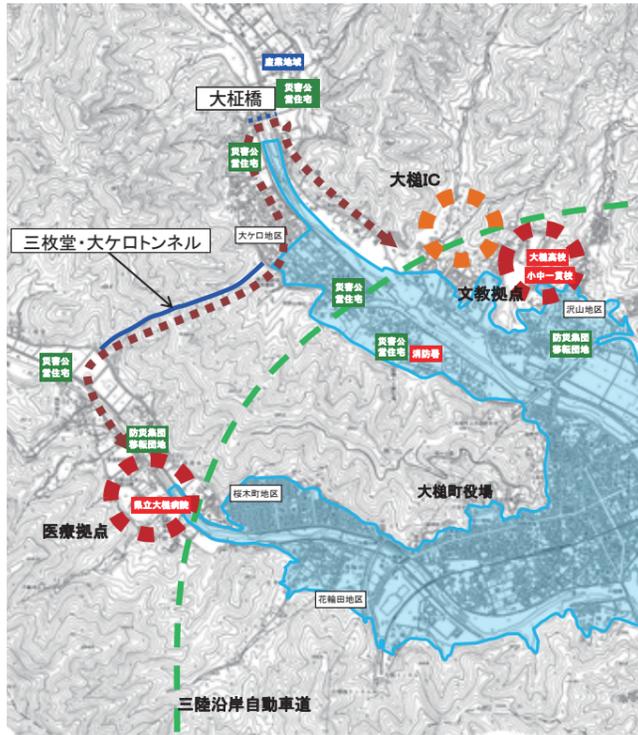


## 横断トンネル事業化

### 「命の道」実現へ

新大槌橋とともに29年度の完成めざす

住民の悲願だった「命の道」が実現する見通しになりました。町内を並行して走る大槌川と小錕川の流域を結ぶ横断道路「三枚堂・大ケロトンネル」（仮称）が今年度、町の事業として調査、測量に着手、平成29（2017）年度内の完成をめざします。完成すると、震災の浸水区域を経由せずに、文教の拠点と医療の拠点との通行が可能になり、安全性、利便性が高まるとともに、循環型のコンパクトなまちづくりが可能になります。



トンネルは、小錕川沿いの町道小錕線と、大槌川沿いの大ケロ地区を結びます。長さ750メートル、幅6・5メートルで片側1車線。事業費は19億6千万円が見込まれています。

トンネルの整備と並行して現在の大槌橋が、新大槌橋として生まれ変わります。新大槌橋は長さ90メートル、幅9・5メートル、事業費は8億3百万円。現在の大槌橋は幅4メートルですから、倍以上に広がります。新しい橋を造るか、現在の橋を拡幅するかは調査、測量の結果によって決められます。

国の社会資本整備総合交付金事業として実施され、事業費は全額国費により賄われます。今年度は用地測量、地質調査や予備設計が実施されます。

震災時、中心市街地は、津波とその後の火災で壊滅的な打撃を受けました。大槌川、小錕川沿いの流域の交通は途絶し、一部の地域は一時、孤立しました。トンネルができれば、津波の浸水区域（図の青色の区域）を経由せずに流域の行き来が可能になります。

大槌町のまちづくり計画によると、大槌川沿いには、小中一貫校、大槌消防署、三陸沿岸自動車道のインターチェンジが、小錕川沿いには、県立大槌病院がそれぞれ建設されます。小中一貫校と大槌高校を核とする文教拠点と、県立中央病院を核とする医療拠点がト



自民党の石破茂幹事長（中央）にトンネル建設を要望する碓川豊町長＝2013年5月22日、東京・永田町の自民党本部

ンネルにより結ばれることで、安全性、利便性が格段に高まります。

また、平時には、循環型の交通ネットワークが築かれてコンパクトなまちづくりが可能になり、地域間の交流が活発化し、経済、産業の活性化が図られることが期待されます。

町と町議会は、横断トンネルの建設は防災上、欠かせない施設として再三、国や県に実現を要望してきました。碓川豊町長は「狭隘な地形や土砂災害危険箇所を多く抱えている町の事情を考慮し、判断していただいた。復興まちづくりに弾みがつく」と話しています。